HITACHI

FLORA 210W NL3

3

ハードウェアを使いこなす

1章 周辺機器を接続する

2章 日常のお手入れ

3章 技術情報

マニュアルはよく読み、保管してください。
・製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分理解してください。
・このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

このマニュアルの使い方

このマニュアルでは、周辺機器の接続方法、日常のお手入れ、技術情報を説明しています。必要に応じてお読みください。

■「1 章　バッテリーを使う」
バッテリーの使い方について説明します。

■「2 章　周辺機器を接続する」
パソコンに周辺機器を接続する方法を説明します。

■「3 章　日常のお手入れ」
パソコンや周辺機器のお手入れについて説明します。

■「4 章　技術情報」
パソコンの仕様、有償部品やオプション情報について説明します。

マニュアルの表記について

重要	重要事項や使用上の制限事項を示します。
ヒント	パソコンを活用するためのヒントやアドバイスです。
参照	参照先を示します。
HDD	ハードディスクドライブを表記します。
FDD	フロッピーディスクドライブを表記します。
FD	フロッピーディスクを表記します。

マニュアル内で使用している画面およびイラストは一例です。機種によっては、異なる場合があります。説明の都合で、画面のアイコンやイラストのケーブルなど、一部省略している場合があります。また、特に記述のない限り、画面はすべて Windows XP のものです。
URL、メールアドレスなどは、マニュアル制作時点のものです。

もくじ

1章

バッテリーを使う

この章では、バッテリーでパソコンを使う方法やバッテリーの上手な使い方について説明します。

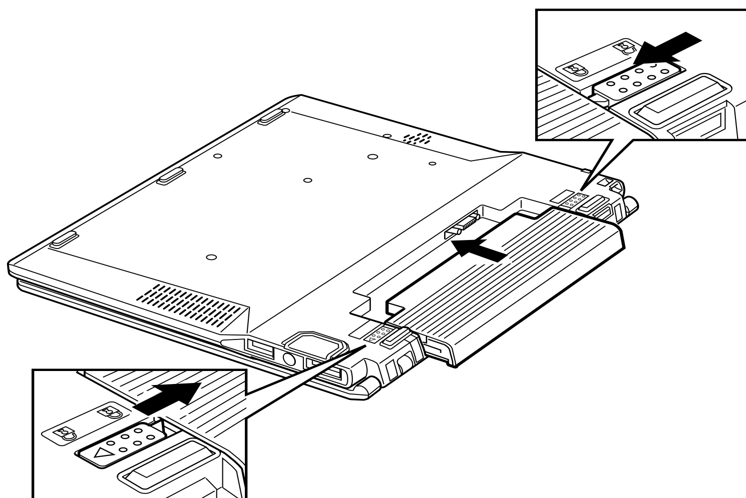
バッテリーを取り付ける

ここでは、バッテリーの取り付け方について説明します。
バッテリーを取り付けると、コンセントのない所にもパソコンを持ち運んで使えます。バッテリーはパソコンに内蔵して使います。

取り付け手順

1 パソコンの電源を切り、パソコンを裏返す。

2 バッテリー(S) を差し込みバッテリーロックレバーをスライドさせロックする。（イラストの左側のロックレバーは、バネが付いているため、自動でロックされる。）



重要

◎ お買い求め直後のバッテリーは充電されていません。充電してからお使いください。また、長期間バッテリーを使わなかったときも定期的に 40% ぐらいまで充電してください。

ヒント

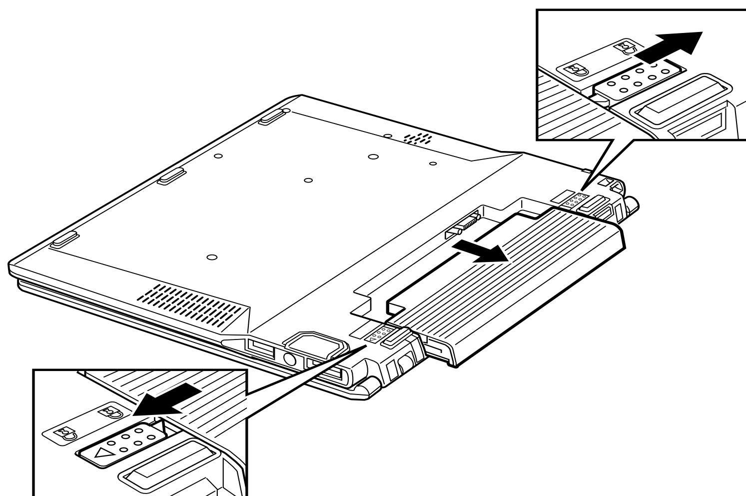
★ バッテリー (L) は、バッテリー (S) と同じ方法で取り付けや取り外しが行えます。

取り外し手順

バッテリー (S) を取り付けたときの逆の手順で取り外します。

1 **電源を切り、AC アダプターを取り外してパソコンを裏返す。**

2 **バッテリーロック 2 つを図の方向へスライドさせたまま、バッテリーを取り外す。**



バッテリーの充電

バッテリーでパソコンを使うには、まずバッテリーを充電する必要があります。

1 パソコンの電源を切り、バッテリーを取り付ける。

2 AC アダプターをパソコンに接続する。

▼充電が始まる。充電中はバッテリーランプが橙色に点灯し、満充電になると緑色に点灯する。

充電時間

パソコンの使用状態と充電時間

210W NL3	パソコンの電源を切って充電	使用しながら充電（またはサスペンド）
バッテリー (S)	約1.5～2.5時間	約1.5～2.5時間
バッテリー (L)	約3.0～5.0時間	約3.0～5.0時間

警告

◎ バッテリーを充電するときは、必ず本パソコンに入れて充電してください。ほかの方法では電圧、充電時間などが異なる場合があり、破裂・発火などの原因になります。

参照

バッテリーの取り付け方→『パソコンを準備する』1章の「接続しよう」

重要

◎ 放電しきったバッテリーや充電せず長期間放置(過放電状態に)したバッテリーでは、充電できない場合があります。充電できる場合は、通常時に比べ、充電に時間がかかることがあります。また、バッテリーランプが消灯しても満充電にならない場合があります。Windowsの電源メーターで確認し、充電が不十分な場合は、バッテリーを取り付け直して再充電してください。

ヒント

★ バッテリーの充電時間は、パソコンの使用環境、周辺機器の接続状況、バッテリーの劣化状態などに応じて異なります。

★ パソコンを使用できる環境（温度、湿度）でバッテリーを充電しないと、満充電にならない場合があります。

充電状態の確認

充電状態はバッテリーランプで確認します。

充電中

バッテリーランプが橙色に点灯

満充電

バッテリーランプが緑色に点灯
（バッテリー容量約 90 ～ 100%）

ヒント

★ 放電直後などでバッテリーの温度が高いと、バッテリーランプが点灯するまでに時間がかかることがあります。

重要

◎ バッテリーランプが橙色に点滅した場合は、バッテリーと AC アダプターを一度外し、再度取り付けて充電してください。

バッテリーでの動作時間

ここでは、バッテリーの動作時間と動作時間を長くする方法について説明します。

バッテリーでの動作時間

210W NL3	動作時間	
	Windows 表示 *1 (HDD MPEG 再生) *2	JEITA 測定法 *3
バッテリー (S)	約 2.6 時間 (約 8.3 時間)	約 3.3 時間
バッテリー (L)	約 1.8 時間 (約 5.7 時間)	約 10.0 時間

＊1:Windows XP 環境で、Windows 表示のみで HDD のアクセスはしない状態です。Windows 2000 環境では記載値の約 80 〜 90% です。ディスプレイの輝度は出荷時の状態､各バッテリーは 5 サイクル以上使用した状態で測定しています。なお、高負荷での使用時では、休止状態に移行できないことがあります。バッテリーをメインにご利用される方は、バッテリー (L) を使用してください。
上記の時間は目安であり、使用可能時間はバッテリーの使用状態および測定温度条件によって、数十分程度異る場合があります。また、バッテリーを使い続けていくと使用可能時間は短くなっていきます。
＊2:HDD から MPEG 動画データを連続再生した場合の動作時間です。
＊3:JEITA 測定法とは、社団法人 電子情報技術産業協会が制定したノート PC 共通の「バッテリー動作時間測定法 (Ver1.0)」です。
JEITA ホームページ：http://it.jeita.or.jp/mobile/
測定に使用したモデルは PC8NL3-HKA8D1A10 です。

JEITA 測定法によるバッテリー動作時間は、次の設定を行って測定しています。

1．節電機能の設定 [電源オプションのプロパティ]
(1) [電源設定] を「バッテリの最大利用」設定しています。
(2) [電源設定] の [バッテリの最大利用の電源の設定] の時間設定すべてを [ハードディスクの電源を切る] を「3 分後」に設定し、多くの項目はすべて「なし」に設定しています。
(3) [アラーム] の設定は［バッテリの低下アラーム］，［バッテリ切れアラーム］共に「オフ」に設定しています。

2．液晶輝度設定
(1) 測定法 A (MPEG 再生)
バッテリー駆動時輝度の最大輝度から 3 段目
(2) 測定法 B (Windows 表示)
バッテリー駆動時の最低輝度
(輝度の設定は液晶の使用状況および、測定状況によって異なります。)

3. 省電力機能の設定 [(既定のモニタ) と Silicon Motion Lynx3DM のプロパティ]
(1) [省電力機能] の [サポート] を [オン] に設定しています。

重要

◎ 定期的に完全放電を行わないとバッテリーでの動作時間が短くなります。

動作可能時間を長くするには

バッテリーを長時間使用するには、次の方法で消費電力を抑えて節電してください。

節電機能を使う

節電機能を使うように設定しておくと、一定時間パソコンを操作しないでいると消費電力を抑えます。ディスプレイを閉じることでも節電機能が働きます。また、長い時間使わないときは、電源を切っておきます。

参照

節電機能の設定について→電子マニュアル『使い勝手を良くする』の２章「消費電力を節約する」

画面を静止させたり、画面の明るさを下げる

■画面を静止させる

スクリーンセーバーなどの画面保護機能を使うときは、「模様なし」(静止画)を選んでください。

■画面の明るさを下げる

[Fn] ＋ [F6] (▼☼) キーを押してディスプレイの明るさを下げると、消費電力を抑えられます。

音量を下げる

[Fn] ＋ [F3] (▼🔈) キーを押して音量を下げると、消費電力を抑えられます。

表示ドライバーの省電力機能を使う

[画面のプロパティ]ー[設定]ー[詳細設定 (または詳細)]ー[省電力機能] タブの [サポート] のチェックをオンにすると、消費電力を抑えられます。

重要

◎ 表示ドライバーの省電力機能は、画面の色、パターンによってちらつく場合があります。気になる場合は、機器をオフにしてください。

バッテリーの容量を確認する

ここでは、バッテリー容量の確認方法と、バッテリー容量がわずかになったときの設定について説明します。
どちらも Windows の [電源オプション] で行います。

[電源オプション] の開き方

1 [スタート] ボタン－ [コントロールパネル] をクリックする。

▼ [コントロールパネル] が表示される。

2 [電源オプション] をクリックする。

▼ [電源オプションのプロパティ] が表示される。

ヒント

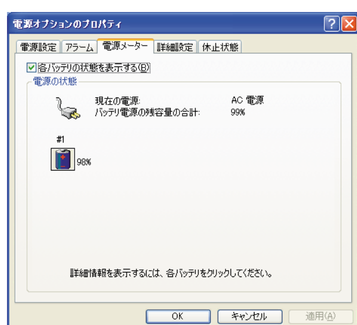
★ Windows XP の場合、[コントロールパネル] は [クラシック表示] で説明しています。

★ Windows 2000 の場合は、[スタート] ボタン－ [設定] － [コントロールパネル] をクリックしてください。

容量を確認する

1 [電源オプションのプロパティ] の [電源メーター] をクリックする。

▼ バッテリーの容量を確認できる。



ヒント

★ Windowws XP の場合、[コントロールパネル] に [電源の管理] アイコンが表示されていないときは、「クラシック表示に切り替える」をクリックするか、「パフォーマンスとメンテナンス」のカテゴリを選択すると表示されます。

★ [電源メーター] は、タスクバーの電池のアイコンをダブルクリックして開くこともできます。

★ 使用環境や動作状態などで容量の値が大きく変動したり正確な値が表示されないことがあります。

★ バッテリーを取り付けた直後は、実際の容量と表示される容量の誤差が大きく、一度、満充電にすると誤差は小さくなります。

★ 定期的に完全放電を行わないと正確な値が表示されません。

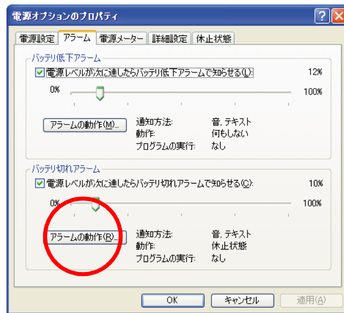
★ バッテリーが満充電でも 90 ～ 100％と表示されないことがあります。

バッテリーの容量が少なくなったときの設定

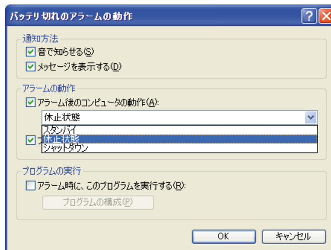
バッテリーの容量がわずかになったとき、パソコンをどうするかを設定できます。標準では、休止状態が働くように設定されています。
このほかの設定は標準値のままお使いください。

1 **[電源オプションのプロパティ] の [アラーム] タブをクリックする。**

2 **「バッテリー切れアラーム」の [アラームの動作] ボタンをクリックする。**



3 **「電源レベル」の「アラーム後のコンピュータの動作」にチェックを付け、[スタンバイ]、または [休止状態] を選び、[OK] ボタンをクリックする。**



4 **[アラーム] タブで [適用] ボタンをクリックする。**

重要

◎ 定期的に完全放電を行わないと、バッテリーでの動作時間が短くなり、バッテリ低下アラームが早く動作することがあります。

◎ 高負荷で動作させた場合、休止状態に移行しない場合があります。

上手にバッテリーを使う

ここでは、上手なバッテリーの使い方を説明します。

バッテリー (S)(AB6800) に適した使用環境

標準バッテリーの使用の際の動作条件には制限があり、主に次のような使用環境に適しています。
・通常、AC アダプターでの使用が主で、停電時の復旧として使用の場合
・スタンバイ状態でのオフィス間の移動の際など、AC アダプターが使用できない時の状態保持として使用の場合
・主に、低負荷での使用の場合（常に CPU に負荷の掛かる計算ソフトや、多数のアプリケーションを同時に実行できない）
・寒冷地では、立ち上げた時の残量表示が極端に少なくなります。また充電ができない場合があります。その場合は、常温で放置したあとに充電してください。

バッテリー (L)(AB6810) に適した使用環境

・通常、モバイル環境（バッテリー）での使用がメインの場合
・バッテリー動作時間を長持ちさせたい場合
・高負荷での使用の場合
・寒冷地では、立ち上げた時の残量表示が極端に少なくなります。また充電ができない場合があります。その場合は、常温で放置した後に充電してください。

バッテリー使用前に、必ずバッテリーを充電する

バッテリーでのご使用の際は、事前に必ず充電してください。特に、バッテリーのみご使用で電源を入れる場合、立ち上げに多くの電力を消費しますので、残量が少ない場合では正常に電源が入らない場合があります。

過放電しない

満充電のバッテリーをパソコンに取り付け、AC アダプターを接続せずに 1ヶ月以上使用しないと過放電になります。また、残量の少ないバッテリーをパソコンに取り付けて 2 ～ 3 日放置すると、バッテリー容量が減ります。過放電したバッテリーは、充電が始まるまでに数時間かかったり、充電できる容量が少なくなります。また、過放電がひどくなると、そのバッテリーは使用できなくなることがあります。

ヒント

★ **バッテリー (S) は、動作するアプリケーションの負荷が大きい場合、使用に制限を受けます。例えばバッテリー使用時にアプリケーションを多数動作させるような高負荷の使用条件では、バッテリー (L) を使用してください。**

重要

◎ **バッテリー(S) を高負荷で使用した場合、動作時間が短くなるばかりでなく、バッテリー残量警告が表示される前に、バッテリー保護により電源が切れることがあります。**

参照

使用環境について→ 4 章の「パソコンおよび周辺機器を使用する環境について」(P.61)

長期間使用しないときでも、1ヶ月に一度は充電する

バッテリーは使用しなくても少しずつ消費されています。バッテリーの残量を確認し、15% 以下であれば 40% 位まで充電してください。また、長期間使用しないときでも、1ヶ月に一度は 40% 位まで充電してください。

定期的に完全放電する

使い方によって、見かけ上の残容量が減り、使用時間が短くなることがあります。これを防ぐため、1ヶ月に 1 回程度、バッテリーを完全放電することをおすすめします。

1 **パソコンの電源を入れ、画面下部に「Press <F12> to enter Boot Menu」と表示されたら、[F2] キーを押す。**

2 **セットアップメニューが立ち上がったら、AC アダプターを取り外し、バッテリー駆動にする。**

3 **バッテリーが切れ、パソコンの電源ランプが消灯するまで放置する。**

4 **放電完了後、バッテリーを充電する。**

重要

◎ 長期間バッテリーを使用しない場合は、残量を 40% 位にして取り外し保存すると、バッテリーの劣化が抑えられます。この場合は過放電しないように注意してください。

重要

◎ 完全放電は、バッテリーを一度満充電してから行ってください。

◎ 完全放電したまま放置しないでください。バッテリーが過放電状態になります。

2 章

周辺機器を接続する

この章では、周辺機器の接続方法と使用方法を説明します。

周辺機器接続時に必要な設定

ここでは、周辺機器を接続したときに必要な設定とその参照先をまとめてあります。なお、次の表で「必要な設定」が「なし」となっている場合でも周辺機器に付属のマニュアルを参照し、必要な場合は設定してください。

重要

◎ 接続する周辺機器には節電機能に対応していないものがあります。
節電機能を使わないように設定してご使用ください。

周辺機器	必要な設定	参照先
マウス テンキーボード	デバイスマネージャ ＊	－
プリンター	プリンタードライバー	プリンター付属のマニュアル
ディスプレイ	・表示ドライバーの セットアップ ＊ ・画面の設定 (必要に応じて) ・マルチディスプレイ表示	参照 電子マニュアル『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」 参照 本章の「ディスプレイを複数接続する」(P.35)「マルチディスプレイ表示にする」(P.38)
ステレオ スピーカー ヘッドホン	サウンドドライバーの セットアップ ＊	参照『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」
PC カード	割り込みの確保	－
LAN	LAN ドライバーの セットアップ ＊	参照『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」
USB 機器	デバイスマネージャ ＊	－

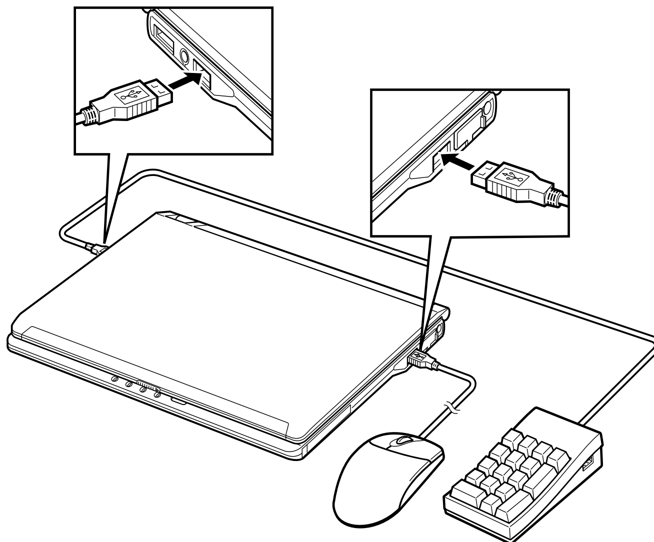
＊標準 (パソコン出荷時の状態) で、セットアップまたは設定済みです。

マウス、テンキーボード

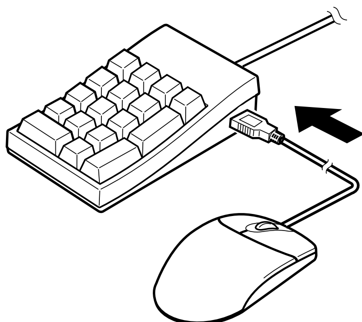
ここでは、USB 仕様のマウスおよびテンキーボードの接続方法と、マウスの操作方法について説明します。

接続方法

1 パソコン側面の USB コネクターに、USB マーク（ ）が上側になるようにしてマウスとテンキーボードのケーブルを接続する。



テンキーボードの USB コネクターに、マウスのケーブルを接続することもできます。



重要

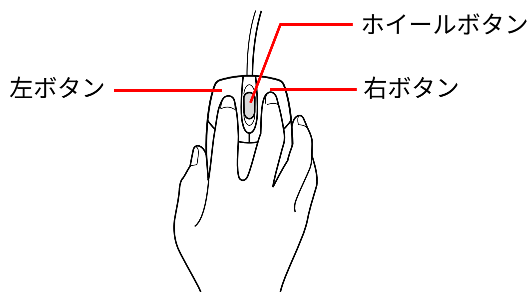
◎ コネクターの金属部には触らないようにしてください。マウスが動作しなくなることがあります。接続時に触れそうなときは、静電気を取り除くか、綿手袋をしてください。

◎ テンキボードにある USB コネクターは、USB マウス専用のものです。

操作方法

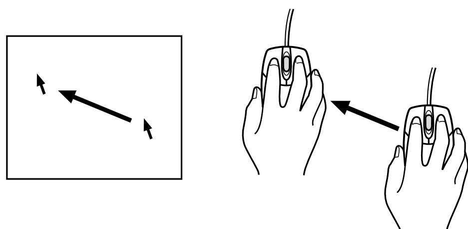
マウスの持ち方

マウスを右手のひらで包み込むように持ち、人差し指を左ボタンに、中指は右ボタンにかかるようにします。



マウスポインターの移動

マウスを動かすと、マウスの動きに合わせてマウスポインターが画面上を動きます。



ポイント

マウスを動かし、マウスポインターを移動し目的の位置に合わせることを、「ポイント」といいます。

重要

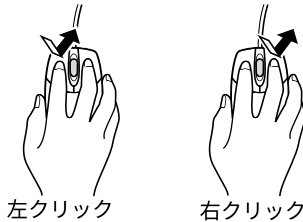
◎ マウスを落としたり、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。

◎ マウスケーブルを引っ張ったり、マウスをぶら下げて運んだりしないでください。

◎ マウスを凹凸がない水平な面で使用するときは、マウスパッドや紙などを敷いて使用してください。マウスは、ボールと滑走面との摩擦で動作するようになっているので、表面がツルツルした凹凸がない場所では正しく動作しないことがあります。

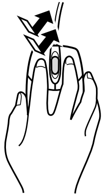
クリック

マウスのボタンを1回押します。



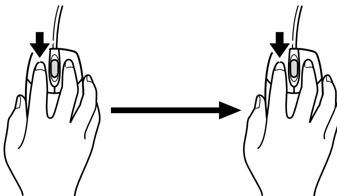
ダブルクリック

マウスの左ボタンを、2回続けて押します。



ドラッグ

マウスの左ボタンを押したまま、マウスを動かします。



ドラッグアンドドロップ

アイコンなどを左ボタンを押して選び、ボタンを押したまま別の場所に移動して指をはなすことを、「ドラッグアンドドロップ」といいます。ファイルの移動やコピーなどに使います。

ヒント

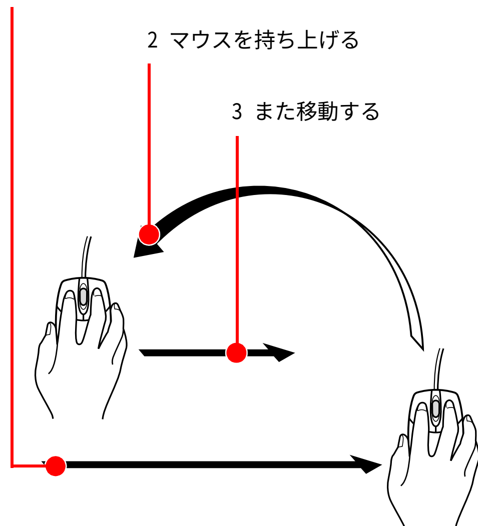
★ ダブルクリックするときの速さは、[マウスのプロパティ] 画面で調節できます。

参照

マウスの設定の変更について→電子マニュアル『使い勝手を良くする』1章の[ポインティングパッドを調整する]

狭い場所でマウスを使う

マウスポインターをもっと動かしたいのに、マウスを動かす場所がなくなってしまったら、いったんマウスを持ち上げて、元の場所からもう一度動かします。

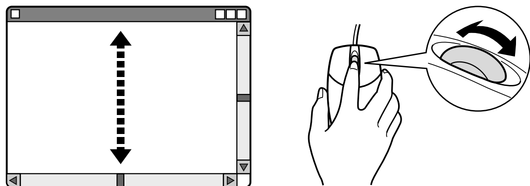


スクロールする

ウィンドウに表示されている内容を上下に移動して、見えない部分を表示することをスクロールといいます。
ホイールボタンを使うと、簡単にスクロールできます。

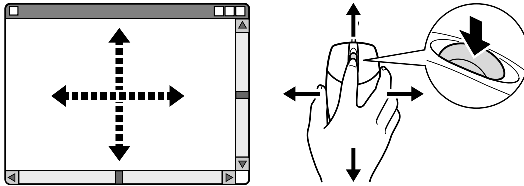
●縦にスクロールする

ホイールボタンを回転させると、縦にスクロールします。



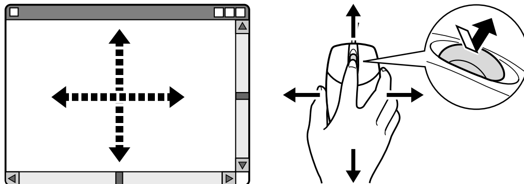
●好みのスピードでスクロールする

ホイールボタンを真下に押しながらマウスを上下左右に動かすと、好みのスピードでスクロールします。マウスの動きを止めても、ホイールボタンを離すまでスクロールは続きます。



●自在にスクロールする

ホイールボタンをクリックしたあと、マウスを上下左右に動かすと、マウスを動かした方向とスピードに合わせてスクロールします。マウスの動きを止めてもスクロールは続きます。もう一度ホイールボタンをクリックすると、スクロールが止まります。



ホイールボタンの使用について

・ホイール機能は、アプリケーションによっては、使用できないことがあります。
・中央ボタン（ホイール）の機能割り当てやスクロール機能の詳細設定などはできません。
・［マウスのプロパティ］の［ボタン］タブで、「スクロールサイズ」を［画面単位］、［なし］には設定しないでください。ホイール機能が使用できなくなります。
・［マウスのプロパティ］の［ボタン］タブで、スクロール、オートスクロール、ユニバーサルスクロールのオプションを［Office 97 互換スクロールのみ有効］に設定すると、Office 97 互換でないアプリケーションではスクロールできなくなります。

ヒント

★「好みのスピードでスクロールする」と「自在にスクロールする」は、［マウスのプロパティ］の［ボタン］タブで、「自動スクロール」を設定した時の動作です。標準設定は、「自動スクロール」です。［ボタン］タブで、別の機能に変更できます。

★アプリケーションによっては、表示の拡大／縮小や、表示内容の変更を、ホイールを使ってできます。詳細は、マウスのプロパティのヘルプをご参照ください。例えば、インターネットエクスプローラの場合は、［Shift］キーを押しながら、ホイールを回転すると、Web ページの［進む］、［戻る］ボタンと同じ動きをします。

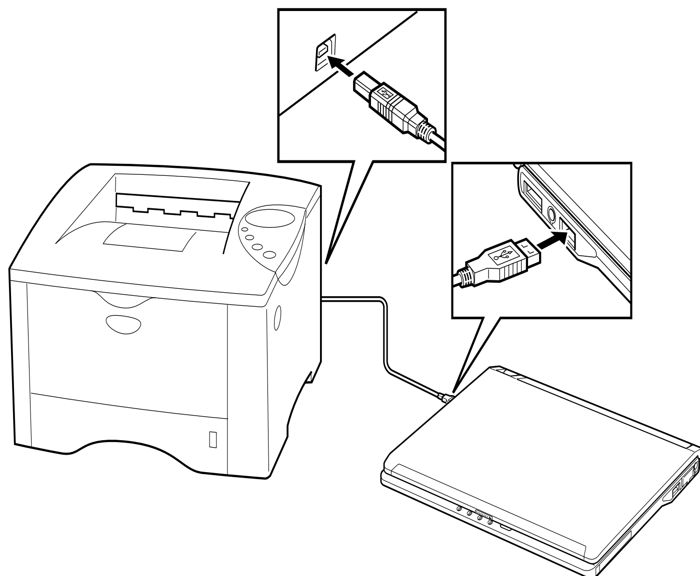
プリンターを接続する

ここでは、プリンターの接続方法（USB）、ドライバーのインストール方法･削除方法、使用するプリンターの選択方法について説明します。

接続方法

1 パソコン側面の USB コネクターのどちらかに、USB マーク（ ）が上側になるようにして USB ケーブルを差し込む。

2 プリンターのコネクターに、USB ケーブルのもう一方のコネクターを接続する。



ヒント

★ プリンターを接続するときは、別売の USB ケーブルをお買い求めください。

参照

プリンターケーブルについて→ 4 章の「オプション一覧表」(P.54)

ヒント

★ はじめて接続する場合は、パソコンに新しいドライブの検出画面が表示されます。画面の指示に従って、ドライバーをインストールしてください。

参照

接続できるオプションについて→ 4 章の「オプション一覧表」(P.54)

プリンタードライバーのインストール方法

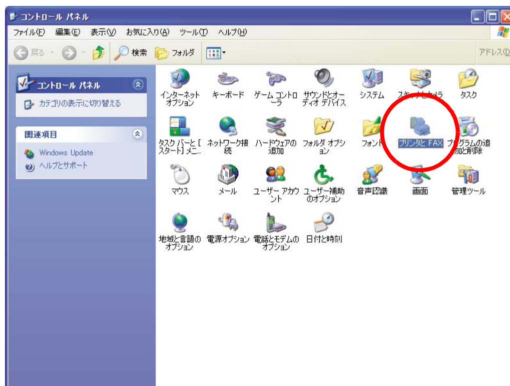
プリンターを使用するには、ドライバーのインストールが必要です。
プリンタードライバーのインストールについては、プリンターに付属のマニュアルをご参照ください。

プリンタードライバーの削除方法

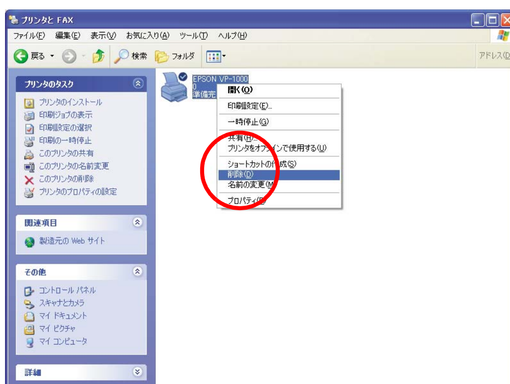
パソコンからプリンターを取り外し、Windows からプリンタードライバーを削除するときは、次のようにします。お使いのプリンターにドライバーを削除 (アンインスール) するユーティリティーがある場合は、そちらをお使いください。
次の説明は一般的な削除方法です。

1 [スタート] ボタン－ [コントロールパネル] － [プリンタと FAX] をクリックする。

▼ [プリンタと FAX] ウィンドウが表示される。



2 削除するプリンターのアイコンを右クリックし、[削除]をクリックする。



ヒント

★ Windows XP の場合、[コントロールパネル] は「クラシック表示」で説明しています。

★ Windows 2000 の場合は、[スタート] ボタン－ [設定] － [プリンタ] をクリックしてください。

3 メッセージが表示されたら、[はい] ボタンを何度かクリックする。

使用するプリンターの選択

通常使うプリンターを設定する方法と、一時的に別のプリンターに切り替えて印刷する方法を説明します。

[通常使うプリンター] を設定する

1 [スタート] ボタン－[コントロールパネル]－[プリンタと FAX] をクリックする。

▼ [プリンタと FAX] ウィンドウが表示される。

2 通常使うプリンターを右クリックし、[通常使うプリンタに設定] をクリックする。

▼ 以降、標準で印刷するプリンターは設定したプリンターになる。

使用するプリンターを一時的に切り替える

1 印刷を行うアプリケーションの[ファイル]メニューから[印刷]を選ぶ。

▼ [印刷] ダイアログボックスが開く。

2 プリンターのドロップダウンリストから、一時的に使用するプリンターを選び、[OK] ボタンをクリックする。

ヒント

★ 削除したプリンターが通常使うプリンターに設定されていたときは、通常使うプリンターを変更するメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてください。

ヒント

★ Windows XP の場合、[コントロールパネル] は「クラシック表示」で説明しています。

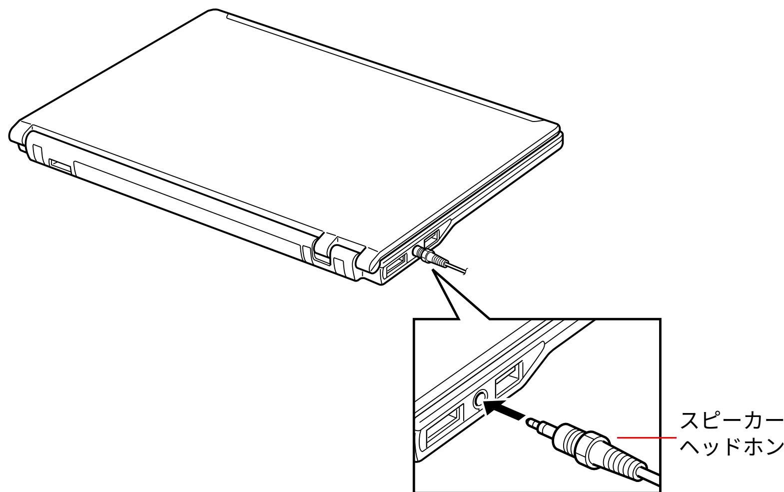
★ Windows 2000 の場合は、[スタート] ボタン－[設定] －[プリンタ] をクリックしてください。

ヘッドホンを接続する

ヘッドホンやスピーカーで、音声データを再生したり、ゲームソフトの BGM なども楽しめます。

接続方法

1 パソコン側面のヘッドホンコネクターに、スピーカーやヘッドホンのコネクターを接続する。



重要

◎ ヘッドホンやイヤホンの使用時は、適度な音量でご使用ください。音量が大きすぎると難聴になるおそれがあります。

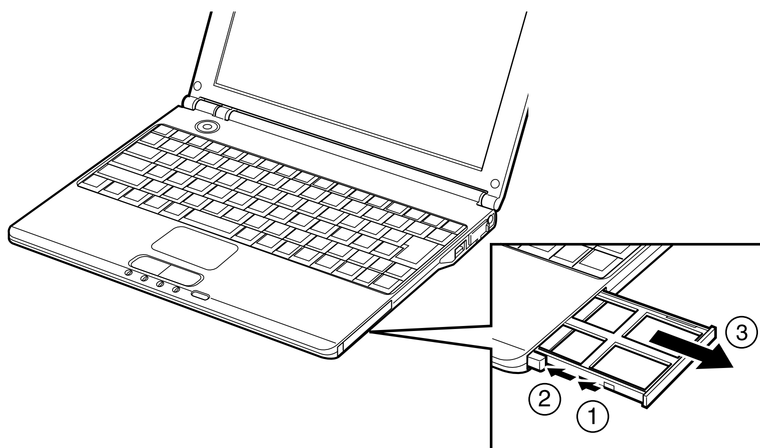
PC カード

このパソコンには、Card Bus ／ JEITA Ver 4.2 ／ PCMCIA2.1 仕様の PC カードを 1 枚接続できます。PC カードを接続することで、SCSI 機器などを使用できます。あらかじめ付属のマニュアルを読み、取り付け可能であることをご確認の上、取り付けてください。

取り付け手順

1 **電源スイッチでパソコンの電源を切り、PC カードのイジェクトボタンを指やペンの先などで押す。**

2 **出てきたイジェクトボタンを押し、ダミー PC カードがスロットから少し出てきたことを確認して取り出す。**



参照

セットアップについて→電子マニュアル『使い勝手を良くする』4 章の「アプリケーションを個別セットアップする」

重要

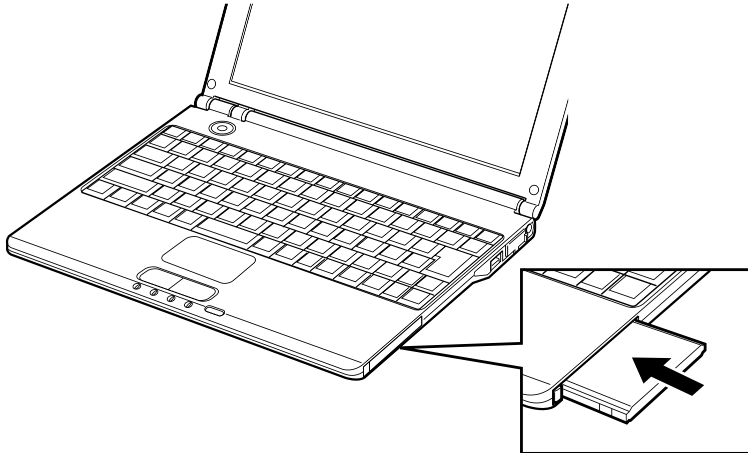
◎ TypeIIIのPCカードは厚いため、接続できません。

◎ PC カードはパソコンの電源を切って取り付けてください。電源が入った状態で取り付け／取り外しのできる PC カードもありますが、PC カードによっては正常に動作しないこともあります。

◎ PC カードは、カードの表側を上にして取り付けてください。逆に入れると、コネクターが壊れるおそれがあります。

◎ PC カードは、水平にまっすぐ入れてください。斜めに入れると、奥まで差し込めないことがあります。

3 PC カードの表側を上にし、水平にまっすぐ奥までしっかりと PC カードを差し込む。



取り外し手順

1 [タスクバー] の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコンをダブルクリックする。

Windows 2000 の場合は、[タスクバー] の [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコンをダブルクリックする。



▼ [ハードウェアの安全な取り外し] 画面が表示される。

2 [ハードウェア デバイス] から取り外すデバイスを選択し、[停止] ボタンをクリックする。

3 [ハードウェア デバイスの停止] 画面が表示される。

4 取り外す PC カードであることを確認して [OK] ボタンをクリックする。

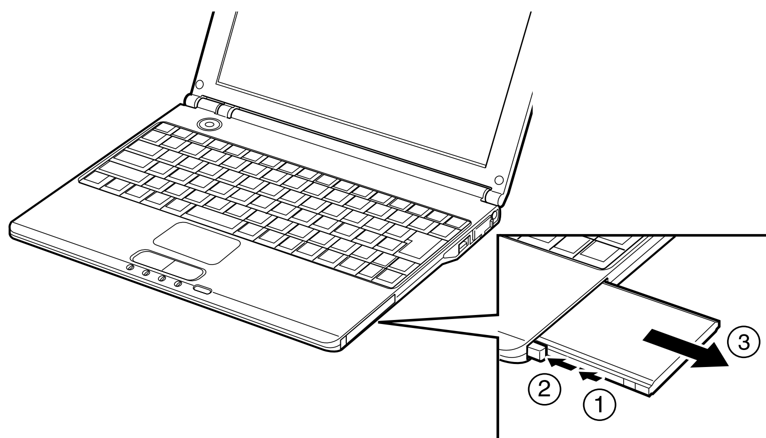
5 [‘ X X X ～ ’ は安全に取り外すことができます。] 画面が表示される。Windows XP では、タスクトレー上にバルーン表示されます。

Windows 2000 では、「‘ X X X ～ ’ は安全に取り外すことができます。」画面が表示される。

6 [OK] ボタンをクリックして [ハードウェアの安全な取り外し] 画面で、[閉じる] ボタンをクリックする。

Windows 2000 の場合は、[OK] ボタン－ [ハードウェアの取り外し] 画面で、[閉じる] ボタンをクリックする。

7 取り出す PC カードのイジェクトボタンを指で押す。出てきたイジェクトボタンを押す。PC カードが少し出てくるので取り出す。

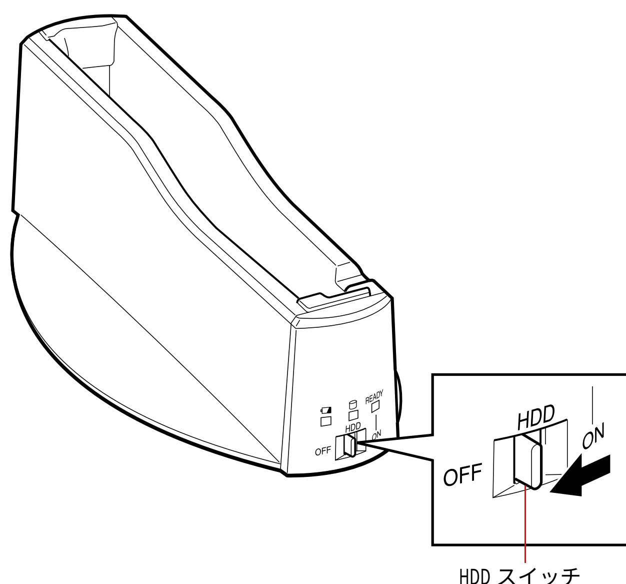


クレードルを接続する

ここでは、クレードル (オプション) を使って HDD のデータをほかのパソコンにバックアップする方法について説明します。
クレードルに接続すると、ほかのパソコンから直接本機のファイルを更新できるので、ほかのパソコンの「USB-HDD」としても利用することができます。

クレードルにパソコン (本機) を接続する

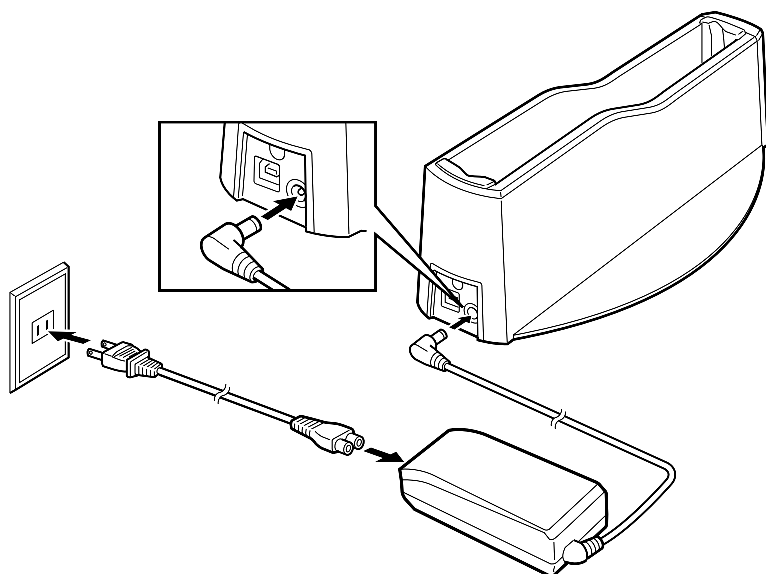
1 クレードル前面の HDD スイッチを OFF にする。



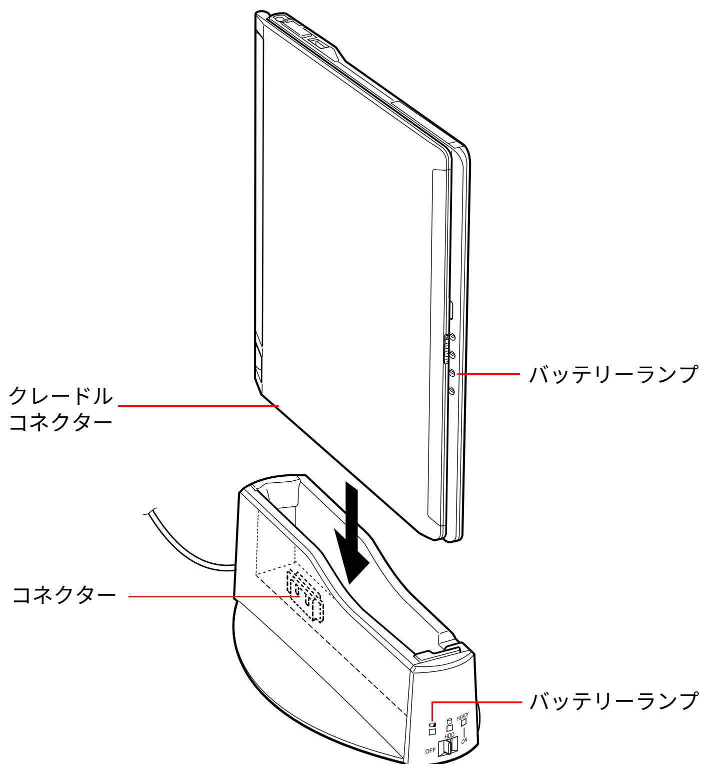
2 AC アダプターのプラグを、クレードルの電源コネクターに接続する。

3 AC コードのコネクターを、AC アダプターに接続する。

4 AC コードのプラグを、コンセントに接続する。



5 パソコン（ 本機 ）の電源を切ってから、クレードルコネクターを下に向けて、クレードルに差し込む。



ヒント

★ パソコン（ 本機 ）をクレードルに接続すると、充電が始まります。充電中は、バッテリーランプが橙色に点灯し、満充電になると緑色に点灯します。

重要

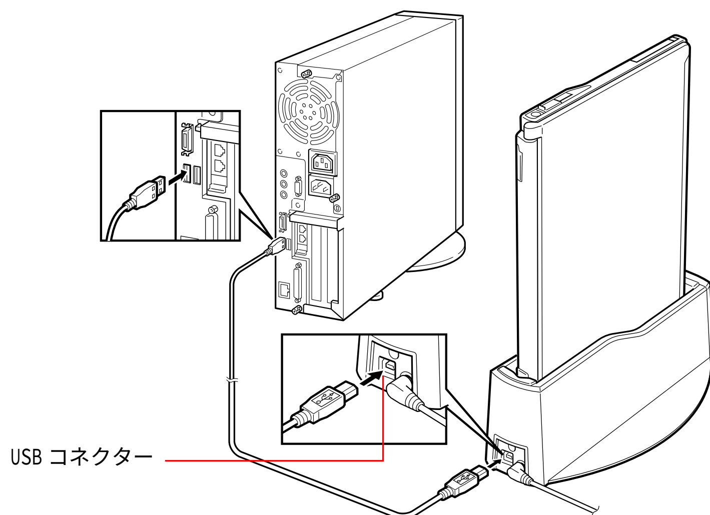
◎ クレードルを長時間使用しない場合は、AC アダプターを抜いてコネクター部分にホコリがたまらないように保管してください。

◎ パソコン（本機）をクレードルに差し込むときは、ゆっくり差し込んでください。また電源を入れたままでは、差し込まないでください。HDD が破損し、データを消失する場合があります。

クレードルに他のパソコンを接続する

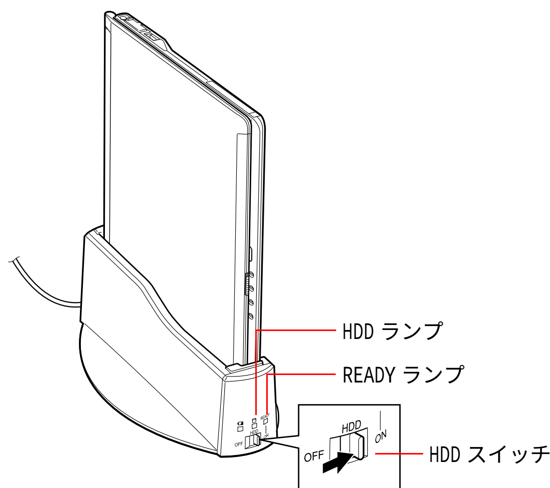
1 **クレードル背面の USB コネクターに、クレードルに付属の USB ケーブルを USB マーク（ ）が上側になるようにして接続する。**

2 **USB ケーブルのもう一方のコネクターを他のパソコンに接続する。**



3 **他のパソコンの電源を入れ、Windows を立ち上げる。**

4 **クレードル前面の HDD スイッチを ON にする。**



▼READY ランプが点灯し、しばらくの間、HDD ランプが点滅する。

重要

◎ コネクターには上下の向きがあります。コネクターの形を確認して取り付けてください。誤った向きで無理に押し込むと、コネクター破損の原因となります。

◎ クレードルに接続できるパソコンは、USB 接続が可能で、OS が Windows XP ／ Windows 2000 のいずれかに限ります。

◎ 節電状態のパソコンをクレードルに差し込んだ場合は、USB-HDD として使用できません。必ずパソコンの電源を切ってください。

◎ パソコン(本機)に Hard Disk Password が設定されていると USB-HDD として使用できません。

◎ User Password が設定されている場合は、パスワード解除ユーティリティーを使うと USB-HDD として使用できます。

参照

パスワード解除ユーティリティーについて
→電子マニュアル『使い勝手を良くする』の3章「付属ソフトウェアの使い方」

ヒント

★ 初めて接続する場合は、パソコンに新しいドライブの検出画面が表示されます。画面の指示に従って、ドライバーをインストールしてください。

5 接続した他のパソコンの [スタート] ボタン－ [マイコンピュータ] をクリックする。

▼パソコン (本機) の HDD アイコンが表示されます。HDD アイコンをダブルクリックすると、パソコン (本機) の HDD の内容が表示されますので、必要なデータをバックアップしてください。パソコン (本機) のデータを直接更新することもできます。

クレードルからパソコン (本機) を取り外す

クレードルに接続した他のパソコンの OS によって手順が異なります。

1 クレードルの HDD ランプが点滅していないことを確認して、[タスクバー] の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコンをダブルクリックする。

Windows 2000 の場合は、[タスクバー] の [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコンをダブルクリックする。



▼[ハードウェアの安全な取り外し] 画面が表示される。

2 [USB 大容量記憶デバイス]（[USB ディスク]）を選択し、[停止] ボタンをクリックする。

▼[ハードウェアデバイスの停止] 画面が表示される。

3 [OK] ボタンをクリックする。

▼[' XXX ～ ' は安全に取り外すことができます。] 画面が表示される。

Windows XP では、タスクトレー上にバルーン表示される。

4 [OK] ボタンをクリックして [ハードウェアの安全な取り外し] 画面で、[閉じる] ボタンをクリックする。

Windows 2000 の場合は、[OK] ボタン－ [ハードウェアの取り外し] 画面で、[閉じる] ボタンをクリックする。

5 クレードル前面の HDD スイッチを OFF にする。

ヒント

★ Windows 2000 の場合は、[マイコンピュータ] アイコンをダブルクリックします。

重要

◎ HDD ランプ点滅中は、クレードルからパソコン（本機）や USB ケーブルを外さないでください。HDD やファイルが壊れる場合があります。

◎ パソコン（本機）の HDD のデータは、接続した他のパソコンにすべて表示されます。パソコン（本機）の起動に必要なファイルやその他重要なファイルを誤って消去しないように注意してください。

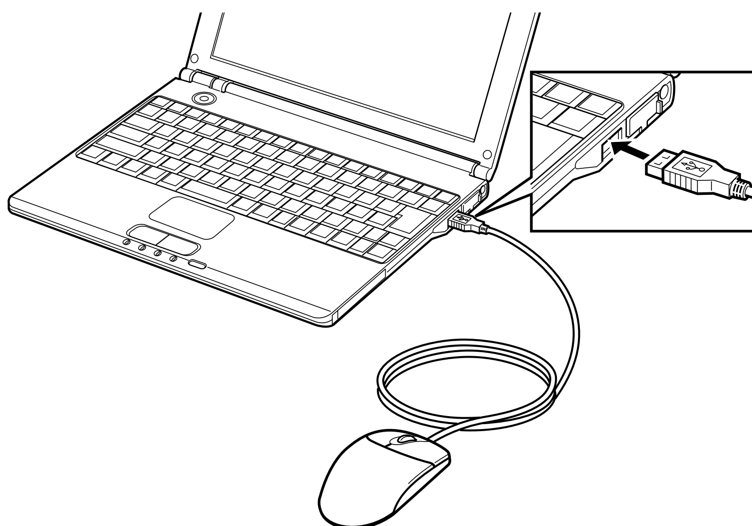
6 クレードルからパソコン (本機) を取り外す。

USB 機器を接続する

このパソコンにはUSB(Universal Serial Bus)機器を取り付けることができます。ここでは、接続方法の一例を説明します。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご参照ください。

接続方法

1 パソコン側面の USB コネクターのどちらかに USB マーク（ ）が上側になるようにして USB ケーブルを差し込む。



ヒント

★ パソコンの電源を入れた状態でも接続できます。

★ USB 機器を使用するには、[デバイスマネージャ] で USB コントローラーを使用できるように設定する必要があります。標準で使用できるように設定してあります。

ディスプレイを複数接続する

外付けディスプレイを接続すると、パソコンと外付けディスプレイに同じ画面を表示(同時表示)できます。さらに、Windows XP の場合は、1 つの画面を 2 台のディスプレイで、広げて表示(マルチディスプレイ表示)できます。

重要

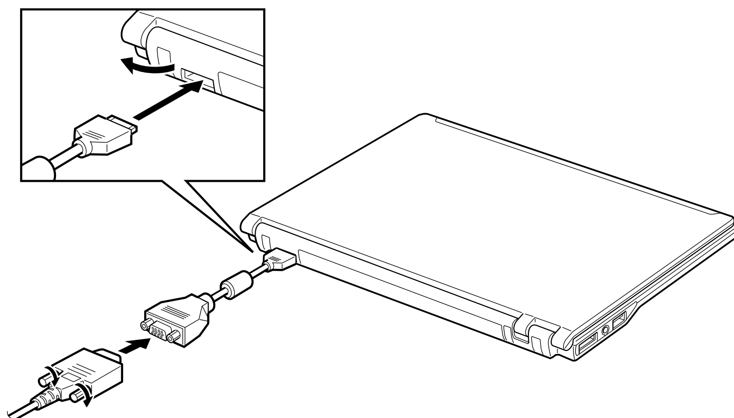
◎ Windows 2000 では同時表示のみを行うことができます。

接続方法

1 **パソコンの電源を切る。**

2 **パソコン背面の専用アナログ RGB コネクターに、CRT 変換ケーブル(オプション)を接続する。**

3 **CRT 変換ケーブル(オプション)に外付けディスプレイのケーブルを接続する。**

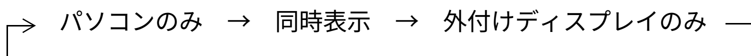


表示先を切り替える

画面表示は、パソコンのみ、外付けディスプレイのみ、同時表示に切り替えることができます。

キーで切り替える

[Fn] キーを押しながら、[F5] キーを押します。押すたび、次のように表示先が切り替わります。



[画面のプロパティ] で切り替える

ここでは、外付けディスプレイにのみ表示させる方法を例に説明します。

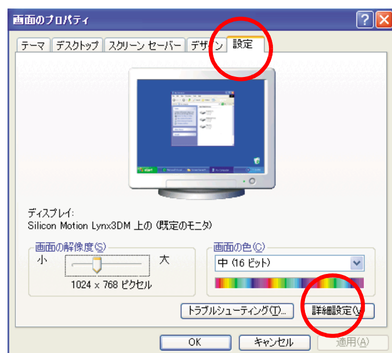
1 「スタート] ボタンー [コントロールパネル] をクリックして、[コントロールパネル] を開き、[画面] アイコンをダブルクリックする。

Windows 2000 では、[スタート] ボタンー [設定] ー [コントロールパネル] ー [画面] アイコンをダブルクリックする。

▼ [画面のプロパティ] が表示される。

2 [設定] タブをクリックし、[詳細設定] ボタンをクリックする。

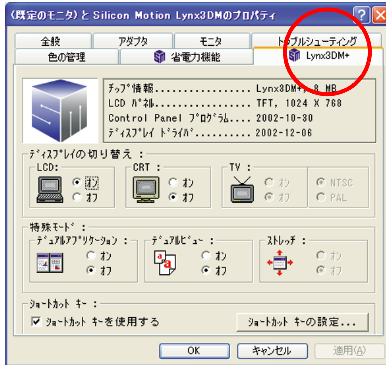
Windows 2000 では、[詳細] ボタンをクリックする。



▼ [(マルチ モニタ) と Silicon Motion Lynx3D のプロパティ] が表示される。

重要
◎ 外付けディスプレイが未接続の場合は切り替わりません。

3 [Lynx3DM+] タブをクリックする。



4 [ディスクプレイの切り替え] を次の内容に設定し、[適応] ボタンをクリックする。

LCD：オフ　　　　CRT：オン

5 外付けディスプレイに表示されたことを確認し、[OK] ボタンをクリックする。

重 要

◎ 外部ディスプレイがサポートしない解像度と色数に設定はしないでください。

マルチディスプレイ表示にする

パソコンと外付けディスプレイでデスクトップ領域を広げて表示できるマルチディスプレイ（またはマルチモニター）表示の設定を説明します。
Windows XP の場合、マルチディスプレイ表示ができます。

1 外付けディスプレイ、パソコンの順に電源を入れる。

2 [コントロールパネル] の [画面] アイコンをダブルクリックし、[設定] タブをクリックする。

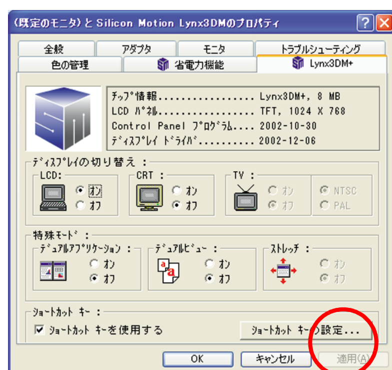
▼ [画面のプロパティ] が表示される。

3 画面の色と領域を次の内容に設定し、[適応] ボタンをクリックする。

設定　色：High Color（16 ビット）
画面領域：1024 × 768

4 [詳細設定] ボタンをクリックし、[Lynx3DM+] タブをクリックする。

5 [特殊モード] 中の [デュアルアプリケーション] をオンに設定し、[適用] ボタンをクリックする。



▼ [デュアルアプリケーションの設定] 画面が表示される。

ヒント

★ マルチディスプレイ表示にしたときは、[Fn] + [F5] キーを押しても、画面表示は切り替わりません。

重要

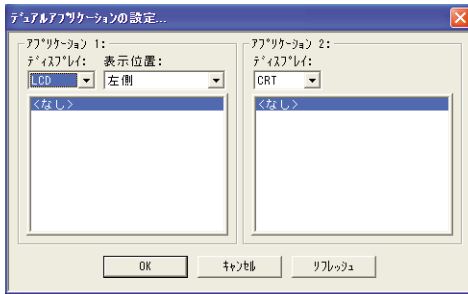
◎ Windows 2000 では、マルチディスプレイの設定はできません。

◎ マルチディスプレイ表示で、3D スクリーンセーバーを選択しないでください。

◎ アプリケーションによっては、マルチディスプレイ表示のセカンダリディスプレイに移動すると、正常に表示されない場合があります。その場合、プライマリディスプレイで表示させてください。

◎ マルチディスプレイでご利用中、画面の解像度、色の設定変更を行わないでください。正常に動作しなくなる場合があります。

6 [表示位置] の左、右側を選択し、それぞれのディスプレイにどのアプリケーションを表示するかを選択し(必要のない場合は<なし>を選択)、[OK] ボタンをクリックする。



7 マルチディスプレイに設定されたことを確認し、[OK] ボタンをクリックする。

重 要

◎ マルチディスプレイ表示では解像度 1024 × 768 のみ設定できます。またマルチディスプレイ表示時に解像度を変更するとミラー表示に切り替わります。

同時表示に戻す

マルチディスプレイ表示から同時表示にする手順を説明します。

1 マルチディスプレイ表示の設定と同じ手順で [画面のプロパティ] を表示し、[設定] タブを開く。

2 [詳細設定] ボタンをクリックし、[Lynx3DM+] タブをクリックする。

3 [特殊モード]中の[デュアルアプリケーション]をオフに設定し、[適用] ボタンをクリックする。



4 [ディスプレイの切り替え] を次の内容に設定し、[適用] ボタンをクリックする。

LCD：オン　CRT：オン

5 同時表示に設定されたことを確認し、[OK] ボタンをクリックする。

その他の周辺機器を接続する

通常、プラグアンドプレイ機能に対応している周辺機器を接続したとき、自動的に Windows が環境を設定します。プラグアンドプレイ機能に対応していない周辺機器を接続する場合は、[ハードウェアの追加ウィザード] を使って手動で環境を設定します。
[ハードウェアの追加ウィザード] を使う前に、周辺機器に付属しているマニュアルをよくお読みください。そのマニュアルに操作手順が記載されている場合は、そちらの手順を行ってください。

1 **パソコンの電源を切る。**

2 **電源プラグをコンセントから抜き、周辺機器を接続する。**

3 **必要に応じて、周辺機器の電源を入れる。**

4 **パソコンの電源を入れる。**

5 **[コントロールパネル] の [ハードウェアの追加] アイコンをダブルクリックする。**

▼[ハードウェアの追加ウィザード] が表示される。

6 **手順に従い [次へ] ボタンをクリックする。**

▼新しい周辺機器の検出が始まる。

7 **しばらくすると、「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました」と表示される。**

8 **[完了] ボタンをクリックする。**

▼検出された周辺機器のドライバーがインストールされる。

ヒント

★ 周辺機器の取り付け･取り外しについては、この章や周辺機器に付属のマニュアルをご参照ください。

ヒント

★ USB 機器のように、パソコンの電源が入ったままでも接続できる周辺機器もあります。

ヒント

★ メッセージが表示されず、増設した周辺機器が見つからない場合があります。[次へ] ボタンをクリックし、周辺機器に付属のマニュアルを参照するなどして手動で設定してください。

3 章

日常のお手入れ

この章では、パソコンの各部分のお手入れについて説明します。

お手入れ

ここではパソコンや周辺機器のお手入れについて説明します。パソコンのお手入れをするときは、パソコンの電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いてから行ってください。またバッテリーを取り付けているときは、バッテリーも取り外してください。

重要

◎ シンナーやベンジン、化学雑巾は使わないでください。パソコンの表面が変質するおそれがあります。

パソコン

パソコンが汚れたときは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは、水か中性洗剤で湿らせた布を固く絞って拭くか、オフィスクリーナーなど、市販の専用クリーナーをお使いください。

重要

◎ 専用クリーナーは、このパソコンのお買い求め先、またはパソコンショップでご購入ください。

マウス

1～3カ月に1回はマウスをクリーニングすることをお勧めします。また、ボールにゴミが付着するなどして正しく動かないときは、クリーニングをしてください。

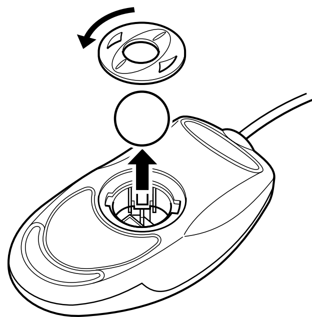
ヒント

★ ボールは中性洗剤を薄めた水で洗ってください。漂白剤、シンナー、ワックス、クリーム、油剤などは使用しないでください。
また、化学雑巾やワックスが付いた布でボールを拭かないでください。ワックスなどの皮膜が付着するとボールがスリップする原因になります。

クリーニング手順

1 マウス底面の中央にあるフタを図のように反時計回りに回す。

フタを外して、中のボールを取り出す。



2 ボールを中性洗剤を薄めた水で洗う。

3 乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾燥させる。

4 **乾いた布でマウスの内部や、内部のローラーのゴミやホコリを取り除く。**

5 **マウスにボールを入れ、取り外したときと逆の手順でフタを取り付ける。**

FDD

FDD は長期間使用しているとヘッドが汚れ、データを読み書きする際にエラーが発生しやすくなります。1 〜 3 カ月に 1 回は市販のクリーニングキットでクリーニングをすることをお勧めします。クリーニングの方法については、クリーニングキット付属のマニュアルをご参照ください。付属のマニュアルがない場合は、次の手順を行ってください。

ヒント
★ クリーニングキットは乾式･湿式両方とも使用できます。
★ クリーニングキットは、このパソコンのお買い求め先、またはパソコンショップでご購入ください。

クリーニング手順

1 **[スタート] ─ [(すべての) プログラム] ─ [アクセサリ] ─ [コマンド プロンプト] をクリックする。**

▼ [コマンド プロンプト] ウィンドウが表示される。

2 **クリーニングディスクを FDD に挿入する。**

3 **クリーニングするドライブに対して、dir と半角で入力し、[Enter] キーを押す。**

▼ エラーが表示される。

ヒント
★ クリーニングするドライブのドライブが（A）の場合、入力は「dirA:」になります。

4 **手順 3 に戻り、これを 4、5 回繰り返す。**

5 **exit と半角で入力し、[Enter] キーを押す。ウィンドウが消える。**

CD-ROMドライブ

データ読み込み時にエラーが頻繁に発生する場合は、市販のクリーニングディスクを用い、クリーニングしてください。クリーニングの方法は、クリーニングディスク付属のマニュアルをご参照ください。

重要

◎ **クリーニング液を使用する湿式レンズクリーナーは、使用しないでください。ドライブ内部のレンズを傷つける原因になります。**

ヒント

★ **クリーニングディスクは、パソコンショップでご購入ください。**

4 章

技術情報

この章では、パソコンのシステム構成および仕様について説明します。

ドライブとディスクの仕様

CD-ROM ドライブの仕様

項目	仕様
形名	FC2100
読み込み速度 ＊	最大 6 倍速
周波数特性	100 ～ 20kHz（± 3dB)
出力チャンネル	2ch
動作表示ランプ	LED
バッファメモリー	128KB
転送レート	最大 900KB/s
質量	約 260g

＊ ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み込みが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

■対応しているディスク

次のディスクを使用できます。

・CD-DA(オーディオ CD)
・CD-ROM(mode1、mode2)
・CD-ROM XA(mode2 の form1、form2)
・PhotoCD(シングル / マルチセッション)
・CD-EXTRA(CD-Plus)
・CD-I
・VIDEO CD
・CD-R/RW

重要

◎ **使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。**

FD の仕様

■2HD

容 量	1.44MB	1.25MB
トラック数／面	80	77
セクター長 (バイト)	512	1024
セクター数／アロケーションユニット	1	1
リザーブセクター数	1	1
FAT 数	2	2
ルートディレクトリー登録総数	224	192
総セクター数	2880	1232
メディア･ディスクリプタバイト	F0	FE
セクター数／ FAT	9	2
セクター数／トラック	18	8
ヘッド数	2	2
隠しセクター	0	0
動作	R/W/F/B *	R/W *

■2DD

容 量	720KB
トラック数／面	80
セクター長 (バイト)	512
セクター数／アロケーションユニット	2
リザーブセクター数	1
FAT 数	2
ルートディレクトリー登録総数	112
総セクター数	1440
メディア･ディスクリプタバイト	F9
セクター数／ FAT	3
セクター数／トラック	9
ヘッド数	2
隠しセクター	0
動作	R/W/F/B *

＊ 意味は次の通りです。
R：読み込み可能、W：書き込み可能、F：フォーマット可能、
B：FD にシステムがある場合、その FD からのパソコンの立ち上げ可能

重 要

◎ 特殊なフォーマットの FD は使用できないことがあります。
◎ 弊社製以外のパソコンでフォーマットした FD は、読み書きができないことがあります。
◎ 2020 シリーズ、elles シリーズなど日立オフィスコンピュータおよび B16、B32 でフォーマットした FD は使用できません。
◎ Windows XP では、2DD の FD はフォーマットできません。

ヒント

★ USB FDD はオプション品です。

ドライブの使用について

CD-ROM ドライブ、FDD(以下、まとめてドライブ) と、それらのディスクの使用について説明します。

ドライブの取り扱い

- ドライブ使用中に振動を与えないでください。データを正しく読み込めないことがあります。
- ディスクが偏重心している場合（ラベルをはっている場合など）、ドライブの振動が通常より大きくなることや、読み込みスピードが遅くなることがあります。
- パソコンの電源を切ったり、ソフトウェアリセット ([Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま [Delete] キーを押す) を行うときは、ドライブのアクセスランプが消えてから行ってください。
- ドライブのアクセスランプの点灯、点滅中に電源を切ったり、ソフトウェアリセットを行うと、ドライブが壊れることがあります。
- ドライブは、5 ～ 35 ℃の温度環境で使用できますが、長くお使いいただくためには 30 ℃以下の場所でお使いください。
- ドライブの使用中に強い衝撃を与えないでください。
- ディスクを入れたり取り出したりするとき以外に、ドライブのトレーを開けないでください。
- トレーの中に異物を入れないでください。ドライブが破損し、故障の原因になります。
- WAVE ファイル、AVI ファイルなどの音声を再生中に、FD に書き込み、読み込みを行うと音声が繰り返して再生されることがあります。
- コマンドプロンプトで、1.25MB の FD は使用できません。Windows でお使いください。
- FDD の場合、未フォーマットなどのディスクに対してアクセスを行うと、ディスクを認識するまでに時間がかかります。このため、フォーマットに時間がかかることがあります。動作は正常ですのでしばらくお待ちください。
- 外付けCD-ROMドライブの再生／停止ボタンより、オーディオCDの再生／停止がおこなえます。詳細については、外付け CD-ROM ドライブ付属の説明書をご参照ください。
- 外付け CD-ROM ドライブの再生／停止ボタンと Windows CD プレーヤー機能を併用しないでください。誤動作する場合があります。

ディスクの取り扱い

- ディスクをお手入れするときは、乾いた柔らかい布でディスクの中心から外周に向けて放射状に拭いてください。このとき、ベンジン、シンナー、水、レコードクリーナー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
- ディスクからゴミや水分を取り除くのにドライヤーは使わないでください。
- ディスクは高温な場所に保管しないでください。
- ディスクを折ったり曲げたりしないでください。
- ディスクに字を書いたり傷を付けないでください。
- ディスクにラベルなどをはると、ドライブ内での回転が不安定になり故障の原因になります。
- お子さまがディスクを傷つけたりしないよう、ディスクはお子さまの手の届かないところに保管してください。

FD の取り扱い

- FD のシャッター部は開けないでください。内部の磁性面が汚れると使えなくなります。
- 磁石やスピーカーなどの強い磁界を発生するものに FD を近づけると、記録したデータが消去するおそれがあります。
- FD は次のような場所に保管してください。
  保管温度：4 ℃～ 53 ℃
  保管湿度：10 ～ 90%Rh (結露しないこと)
  最大湿球温度：25 ℃
- FD ラベルは正しい位置にはってください。ラベルを替えるときは、重ねばりをしないでください。
- FD は消耗品です。同じ FD を長期間使用しないでください。
- 大切なデータは必ずバックアップを取ってください。また、バックアップ FD はバックアップ以外の目的に使わないでください。

その他の周辺機器の仕様

バッテリーの仕様

項目	仕様	
形名	AB6800	AB6810
平均容量	1800mAh	5400mAh
公称電圧	11.1V	

マウスの仕様

項目	仕様
形名	KM5430
外形寸法	62mm(W) × 120.8mm(D) × 37.5mm(H)
質量	約 120g
ケーブル長	約 1000mm
インタフェース	USB 準拠

内蔵無線 LAN の仕様

項目	仕様
通信規格	802.11b 準拠
通信速度	最大 11Mbps
周波数帯	2401 ～ 2495GHz
使用可能 チャンネル	1 ～ 14ch
暗号化機能	対応 Bit 数：64bit(40bit) ／ 128bit(104bit) 暗号キー入力：16 進数／ ASCII コード

- 5GHz(IEEE802.11a 準拠) の無線 LAN アクセスポイント (PC-CN5410) とは通信できません。
- 無線 LAN は日本国内の法律に基づいて開発しています。海外で使用すると罰せられる場合があります。
- 内蔵無線 LAN の Peer-to-Peer 接続は同一機同士の接続のみサポートとなります。オプションの無線LANカード(PC-CN3200、PC-CN3400、PC-CN5420)や、他機種の PC 内蔵無線 LAN との Peer-to-Peer 接続はできません。
- 通信速度は理論上の最大値であり実際の通信速度は電波の状況等により通信速度を下げて接続します。

ヒント

★ 周辺機器の使用環境はパソコンと同じです。

クレードルの仕様

項目	仕様
形名	AU3300
外形寸法	160mm(W) × 240mm(D) × 81mm(H)
質量	約 950g
インタフェース	電源コネクター、本体接続用コネクター、 USB2.0 準拠

オプション一覧表

パソコンに増設または接続できるオプションを次に示します。
オプション機器は随時、生産中止、新製品発表などがありますので
ご購入の際は、営業などにお問い合わせください。

分類	品名	形名	仕様
ディスプレイ	ディスプレイ装置	DC1556	15 型カラーマルチスキャン
		DC1702	17 型カラーマルチスキャン
入力装置	テンキーボード	KB3450	USB、17 キー USB IF 付き
	マウス	KM5430	USB、2 ボタン ホイール付き
アクセサリー	AC アダプター	AP6800	AC コード添付
	標準バッテリー	AB6800	リチウムイオン
	大容量バッテリー	AB6810	リチウムイオン
	スマートカード リーダーライター	KC5700	外付け、USB I/F
	スマートカード	AZ2100	
	クレードル	AU3300	USB I/F、USB ケーブル添付
	キャリングケース	AR2200	
	カーシガレット アダプター	AP6050	
	Bluetooth アダプター	CL3100	USB I/F
	無線 LAN カード	CN5420	5GHz
ファイル装置 (外付)	USB FDD	UF2231	USB I/F
	CD-ROM ドライブ	FC2100	USB I/F
ケーブル	CRT 変換ケーブル	AT1400	
	カーシガレット アダプターケーブル	LG2150	
	携帯電話接続 ケーブル	PC-LM3010	USB I/F
	PHS 接続ケーブル	PC-LM3020	USB I/F
	H"(AirH" 対応) 接続ケーブル	PC-LM3030	USB I/F
	cdmaOne 接続ケーブル	PC-LM3040	USB I/F

分類	品名	形名	仕様	
プリンター	シリアルドット プリンター	PD2080A	75 字 / 秒、136 桁	＊1
		PD2130	125 字 / 秒、136 桁	＊1
		PD2161	160 字 / 秒、136 桁	＊1
	水平インサーター プリンター	PD4080S	75 字 / 秒、136 桁	＊1
		PD4081	80 字 / 秒、136 桁	＊1
		PD4130A	130 字 / 秒、136 桁	＊1
		PD4180	180 字 / 秒、136 桁	＊1
	ラインプリンター	PN5200	280 行 / 分、136 桁	
		PN5400	500 行 / 分、136 桁	
		PN5600	800 行 / 分、136 桁	＊2
		PN5600P	800 行 / 分　パワースカッターモデル、136 桁	＊2
	モノクロページ プリンター	PL2170	16 枚 / 分、A4 モデル	＊1
		PL2560	22 枚 / 分、A3 モデル	＊1
		PL7350B	35 枚 / 分、A3 モデル、2 段カセット	＊1
		PL7350T	35 枚 / 分、A3 モデル、4 段カセット	＊1
		PL7450B	45 枚 / 分、A3 モデル、2 段カセット	＊3
		PL7450T	45 枚 / 分、A3 モデル、4 段カセット	＊3
		PL7450C	45 枚 / 分、A3 モデル、コピー機能	＊1
		PL7450CF	45 枚 / 分、A3 モデル、コピー /FAX 機能	＊1
		PL7450CN	45 枚 / 分、A3 モデル、コピー / スキャナー機能	＊1
		PL7450FS	45 枚 / 分、A3 モデル、コピー /FAX/ スキャナー機能	＊1
		PL7450C2	45 枚 / 分、A3 モデル、コピー / 後処理機能	＊1
		PL7450CF2	45 枚 / 分、A3 モデル、コピー /FAX/ 後処理機能	＊1
		PL7450CN2	45 枚 / 分、A3 モデル、コピー / スキャナー / 後処理機能	＊1
		PL7450FS2	45 枚 / 分、A3 モデル、コピー /FAX/ スキャナー / 後処理機能	＊1

分類	品名	形名	仕様	
	カラーページプリンター	PK3000	カラー 6 枚 / 分、 モノクロ 24 枚 / 分、 A3 モデル	
		PK3000N		
		PK3500N		
		PK2000	カラー 6 枚 / 分、 モノクロ 24 枚 / 分、 A4 モデル	
		PK2000N		
		PK2500N		
		PK4700N	カラー 29 枚 / 分、 モノクロ 29 枚 / 分、A3 モデル	
		PK4800	カラー 12.5 枚 / 分、 モノクロ 50 枚 / 分、A3 モデル	＊1
	連続紙ページプリンター	PL9120	1650 行 / 分	
シリアルドットプリンター / 水平インサーター / ラインプリンター / 連続紙ページプリンター用オプション	イージーセットフィーダー	AS40801S	PD4080S 用	＊3
	トラクターユニット	PG4080S	PD4080S 用	
		PG4081	PD4081 用	＊4
		PG4130	PD4130A/4180 用	＊5
	自動給紙機構	AS40802S	PD4080S 用	
		AS4081	PD4081 用	＊4
		AS4130	PD4130A/4180 用	＊5
		AS1061	PD2080 用	
		AS3130	PD2130 用	
		AS2161	PA2161 用	
	LAN アダプター	PB20101	PD2080/2130/2161/4080S/ 4081/4130A/4180 PN5200/5400/5600/5600P/ PL9120 用、100/10BASE	
		PB20111	PD2080A/2130/2161/4081/ 4130A/4180 PN5200/5400/5600/5600P 用、 100/10BASE	
		PB20301	PD2080A/2130/2161/4080S/ 4081/4130A/4180 PN5200/5400/5600/5600P PL9120 用、100/10BASE	＊12
		PB40002	PL9120/PK2000/3000 用、 100/10BASE	
	防振テーブル	AD10100	PD2080A/2130/2161/4080S/ 4081/4130A/4180 用	
	パワースタッカー	PH91201	PL9120 用	
	用紙カッター	PH91202	PL9120 用	

分類	品名	形名	仕様	
ページプリンターオプション	ペーパーフィーダー	PF2170	PL2170 用、250 枚給紙機構	＊ 6
		PF25501	PL2560 用、250 枚給紙機構	＊ 7
		PF25502	PL2560 用、500 枚給紙機構	＊ 7
	両面ユニット	PW2550	PL2560 用	
		PW74501	PL7350x/7450x 用、手差しトレイ付	
	拡張メモリー	PM27001	PL2560 用、32MB	＊ 8
		PM27002	PL2560 用、64MB	＊ 8
		PM74501	PL7350x/7450x/7450xx2 用、128MB	
	LAN ボード	PB20002A	PL2560 用、100/10BASE	＊ 9
		PB20011A	PL2560 用、100/10BASE、C/S560 対応	＊ 9
		PB2170	PL2170 用、100/10BASE	
	KEIS フォントカード	PB20702	PL2560 用、C/S560 対応	
	内蔵 HDD	PA2560	内蔵増設 HDD、6GB	＊ 9、＊ 10
		PA74502	PL7350x/7450x/7450xx2 用、5GB	
	PS 拡張キット	PA74503	PL7350x/7450x/7450xx2 用、PostScript 用キット、モリサワ 2 書体付	
ページプリンターオプション	Desktop Doccument Manager	PV74502	PL7350x/7450x/7450xx2 用、ドキュメント管理ツール、追加 5 ライセンス	
	マルチファンクションコントローラー	PB73501	PL7350T 用、マルチファンクション対応コントローラー	
	マルチファンクションキット	PV7450C	PL7350T 用、コピー拡張キット	
		PV7450CF	PL7350T 用、コピー /FAX 拡張キット	
		PV7450CN	PL7350T 用、コピー / スキャナー拡張キット	
		PV7450FS	PL7350T 用、コピー /FAX/ スキャナー拡張キット	
	FAX 用増設メモリー	PV74506	PL7450CFx/7450FSx、PV7450CF/7450FS 用、8MB	
	電源ユニット	PA74501	PL7350B/7450B 用、排紙オプション増設用	
	メールビンスタッカー	PH74503	PL7350x/7450x 用、8 ビン排紙、最大段 250 枚、その他段 100 枚	
	フィニッシャー	PH74504	PL7350x/7450x 用、ステープル機能、最大 1200 枚排紙	

分類	品名	形名	仕様
カラーページプリンターオプション	ペーパーフィーダー	PF4110	PK3000/3000N/3500N 用、500 枚給紙機構
		PF4120	PK2000/2000N/2500N 用、500 枚給紙機構
		PF47001	PK4700N 用、550 枚給紙機構
		PF47002	PK4700N 用、550 枚× 2 段給紙機構
		PF47003	PK4700N 用、3000 枚給紙機構
	大容量キャビネット	PF48001	PK4800 用、2200 枚給紙機構
	両面ユニット	PW4110	PK3000/3000N/3500N 用、両面印刷機構
		PW4120	PK2000/2000N/2500N 用、両面印刷機構
		PW4700	PK4700N 用、両面印刷機構
	増設メモリー	PM41101	PK3000/3000N/3500N/2000/2000N/2500N 用、64MB
		PM42101	PK3500N/2500N 用、128MB
		PM47001	PK4700N 用、64MB
		PM47002	PK4700N 用、128MB
		PM48001	PK4800N 用、64MB
		PM48002	PK4800N 用、128MB
	LAN アダプター	PB40002	PK3000/2000 用、100/10BASE
	増設 HDD	PA42101	内蔵増設用 HDD、フォント増設用
		PA47001	PK4700N 用、プリンター台
	プリンター台	AD4110	PK3000/3000N/3500N 用、プリンター台
		AD4700	PK4700N 用、プリンター台
	標準用紙カセット	PA41101	PK3000/3000N/3500N 用
		PA41201	PK2000/2000N/2500N 用
	LFU カセット	PA41103	PK3000/3000N/3500N 用
		PA41203	PK2000/2000N/2500N 用
	A4 カセット	PA41102	PK3000/3000N/3500N 用
	PostScript ソフトウェアキット	PA48002	PK4800 用、PostScript 用キット、モリサワ 2 書体付
カラーページプリンターオプション	メールボックス / ソーター	PH48001	PK4800 用、10 ビン /1000 枚排紙機構
	メールボックス / フィニッシャー	PH48002	PK4800 用、10 ビン /1000 枚排紙 / ホチキス止め機構
	プリンスキット	PG48001	PK4800 用、床面補強版
		PG48002	PK4800 用、床面補強版
		PG48003	PK4800 用、床面補強版
	地震対策キット	PG48005	PK4800 用、地震対策キット

分類	品名	形名	仕様	
LAN 機器	無線 LAN アクセスポイント	CN3300	IEEE802.11b 準拠 (最大 11Mbps)	
	5GHz 無線 LAN アクセスポイント	CN5410	IEEE802.11a 準拠 (最大 54Mbps)	
	TP トランシーバー	LAN-LNTTF		
	リピーター	HN-1312-12		
	マルチリピーター (HUB)	HN-1332-08B		
		HN-1332-16		
		HN-1332-16A		
		HN-1352-08		
		LAN-LNRP8A		
		LAN-LNRP16A		
		LAN-LNFRP8A		
	SNMP 付マルチポートリピーター	LAN-LNRP12		
	HUB 管理ユニット	HN-F1332-1		
	管理機能内蔵 HUB	HN-1342-08		
		HN-1342-16		
		HN-1342-16A		
		HN-1362-08		
	スイッチング HUB	PC-BH7500		
	HS30	HN-1801-08		
	HS30	HN-1801-16		
	HS50	HN-1805-10		
	HS100	HN-1811-10		
	HS100	HN-1811-10A		
	HS100	HN-1811-10F		
	HS150	HN-1815-10		＊ 11
	HS150	HN-1815-10A		＊ 11
	HS150	HN-1815-20		＊ 11
	HS150	HN-1815-20A	HS150	
	HS150	HN-1815-31	HS150	
	HS150	HN-1815-32	HS150	
	HS200	HN-1821-10A		
	HS200	HN-1822-10A		
LAN 機器	HS200	HN-F1821-12		
	HS200	HN-F1821-31A		
	HS200	HN-F1821-32E		
		LAN-LNF2SW6A		＊ 11
		LAN-LNFR2SWA		
		LAN-LNFR8SWA		＊ 11

分類	品名	形名	仕様
ケーブル	プリンターケーブル	LP1101	PD2080A/2130/2161/4080S/4081/4130A/4180 PL2170/2560/7350x/7450xx/7450xx2/PK2000/2000N/2500N/3000/3000N/3500N/4700N/4800 用、1.8m
		LP20301	PB20301 用、変換コネクター ＊12
		HT-4996-66E	PN5200/5400/5600/5600P 用、2.5m
		HT-4996-66H	PL9120 用、5m
	モデムケーブル	LM1111	4.0m
		LM1100	2.0m
	RS-232-C 機器接続ケーブル	LR1111	4.0m
		LR1100	2.0m
	SCSI ケーブル	LE3080	
	マルチリピーター接続ケーブル	HN-F1332-16	HUB16 を接続
	TP ケーブル（3m）	LNW03Q5	
	（6m）	LNW06Q5	
	（15m）	LNW15Q5	
	（30m）	LNW30Q5	
	（100m）	LNW100Q5	

この一覧表以外のオプションは、使用しないでください。正しく動かないことがあります。

＊1 ：プリンターケーブルや拡張メモリーなどとのセット品もあります。
＊2 ：通常の 2 極電源とは異なるため、別途、電源工事が必要です。
＊3 ：イージーセットフィーダー接続時は、自動給紙機構の前方接続または連続用紙の前方給紙はできません。
＊4 ：トラクターユニットと、自動給紙機構をプリンターの後方に同時接続することはできません。
＊5 ：トラクターユニットと、自動給紙機構をプリンターの前方に同時接続することはできません。
＊6 ：1 段のみ増設可能です。
＊7 ：2 段まで増設可能です。ただし、５００枚ペーパーフィーダーは最下段のみで使用可能です。
＊8 ：拡張メモリーは 1 つのみ接続可能です。
＊9 ：LAN ボードと内蔵 HDD は、いずれか 1 つの選択となります。
＊10: 拡張メモリーの追加が必要です。
＊11: 100BASE-TX/10BASE-T 共用です。それ以外の LAN 機器は 10BASE-T 専用です。
＊12: ラインプリンター、連続紙ページプリンターに接続するには、プリンターケーブル PC-LP20301 が必要です。

重要事項

ここでは、パソコンおよび周辺機器の使用環境、使用方法における制限な内容をまとめてあります。

パソコンおよび周辺機器を使用する環境について

・寒い場所では、室温を動作時周囲温度まで上げたあと 20 ～ 30 分経過してからお使いください。
・暑い場所では、しばらく空調などを使用し室温が一定になってからお使いください。
・直射日光の当たる場所や、ストーブなど発熱する器具の近くでは使用しないでください。
・ほこりが極端に多い場所では、使用しないでください。
・極端に高温、低温の場所、または温度変化が激しい場所では使用しないでください。また、湿度が極端に高い場所では、使用しないでください。
・腐食性ガスや塩分を多量に含む空気などは、パソコンおよび周辺機器の表面を化学的に腐食させます。そうなると、電子部品の接触抵抗が増加したり、可動部品の構造がもろくなり、パソコンおよび周辺機器の信頼性が著しく低下します。そのため、パソコンや周辺機器は腐食性ガス（ 特に亜硫酸ガス、硫化水素、塩素ガス、アンモニアガスなど）や塩分を多量に含む空気などが発生しない場所に設置してください。
・パソコンを使用する場所の近くで落雷が発生したり、電源の供給状態が悪い場合、使用中に瞬時停電や電圧低下が発生し、突然ディスプレイの表示が消えることがあります。
このときは、一度パソコンの電源を切って立ち上げ直してください。

参照

最適な湿度について→『パソコンを準備する』付録の「パソコン仕様一覧」

パソコンおよび周辺機器の取り扱いについて

・ハードウェアの故障に伴うデータやアプリケーションの破損については、補償いたしかねます。あらかじめご了承ください。
・Windows の立ち上げ中や使用中に強制終了すると、次回立ち上げ時にチェックプログラムが動くことがあります。異常がない場合は、そのあと正常に Windows が立ち上がりますが、異常がある場合は HDD をフォーマットしないとパソコンが使用できない場合もあります。
・電源を切ってから再び電源を入れるまでに、必ず 20 秒以上お待ちください。連続して電源を入り切りする（瞬時停電も含む）と保護機能が働くことがあります。このときは、一度電源を切って、AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜きます。20 秒以上経過してから AC アダプターの電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れてください。
・パソコンを立てかけて置くと、倒れた場合に壊れることがあります。絶対に立てかけないでください。
・パソコンは精密な電子部品で製造されていますので、衝撃を与えないでください。

・磁石やスピーカーなどの強い磁気を発生するものを近づけると、パソコンおよび周辺機器の故障の原因になります。
・ディスプレイを背中合わせに設置したり並べて配置する場合は、互いに少し離して配置してください。
・マウスは耐外来ノイズ性能が劣ります。マウスが誤動作する場合は、パソコンおよびその周辺機器の電源を同一のノイズフィルター付きＯＡタップからとることをお勧めします。
・マウスの内部に異物などが入ったときは、取り除いてください。異物が入るとボールがなめらかに動かなくなります。
・電源スイッチを一度 OFF にしたら、再度 ON にするのは必ず 20 秒以上経過してからにしてください。20 秒以上経過しないと、パソコンが立ち上がらないことがあります。
・煙霧状の殺虫剤などを使用するときは、事前にビニールシートなどでパソコンを完全に包んでください。
・じゅうたんのある部屋でパソコンを使用したり、パソコンの使用中にひざ掛けなどを使用すると、それらの材質によっては静電気が発生し、パソコンおよび周辺機器に悪影響を及ぼす場合があります。静電気の発生しにくい材質のものをお使いください。

通信について

・通信中や、HDD、CD-ROM ドライブ、FDD の読み込み、書き込み中には、パソコンの電源を切ったりソフトウェアリセットを行わないでください。

ディスプレイについて

・表示するパターンによっては、微妙な輝点 (指定の色と関係なく光る) や黒点 (指定の色が表示できない) が見えたり、罫線や文字の一部が欠けることがあります。ただし、輝点や黒点の数については、弊社の規格によって制限しています。ご使用中、著しく増加することはありません。
・液晶の特性上、表示するパターンによっては、画面がちらつくことがあります。
・長時間同一パターンを表示していると、画面が変ったときにも前のパターンが薄く見えることがあります。これは時間が経過すると消えます。
・パソコンの使用温度範囲は、5 ℃〜 35 ℃です。5 ℃未満の環境でご使用になると画面が暗くなったり、表示できなくなったりします。5 ℃以上のところで、電源を入れ直してください。
・長時間継続してご使用になると、液晶の温度上昇によりコントラストに少し変わったムラが出ることがあります。これは温度が下がると元に戻ります。
・ディスプレイ表面に水滴や指紋が付いたときは、すぐに拭き取ってください。
・多色表示を実現させるため、また液晶の構造上、上方向から見えにくくなっています。ディスプレイ部を見やすい角度にしてご使用ください。
・パソコンのディスプレイの最大領域を越えて、外付けのディスプレイに同時表示すると、パソコンのディスプレイには表示されません。
・節電機能に移行するとき、表示が一瞬、乱れることがあります。

HDD の容量表示について

HDD は、高密度な磁気ディスクにデータを保存する精密機器です。磁気ディスクには微小な欠点があり、これらの領域にはデータを書き込まないようになっています。
HDD のエラーチェックプログラムを実行すると、「不良セクタ」もしくは「スキップセクタ」が表示されることがあります。これは、データを書き込まない領域を表示しているだけで、HDD の不良ではありません。
取り付けられている内蔵 HDD の容量と、エラーチェックプログラム実行時に表示される「全ディスク容量」との関係は次の通りです。内蔵 HDD が複数のパーティションに分割されている場合は、各領域の合計値です。この場合、合計値が次の値以下になる場合があります。なお、＊は『パソコンを準備する』付録の「パソコン仕様一覧」の「 HDD 」の項目をご参照ください。

内蔵 HDD 容量	全ディスク容量の表示
＊ GB	＊× 1000000000 バイト以上

バッテリーの使用について

・お買い求め直後、または長時間バッテリーを使わなかった場合、満充電にしても使用可能時間が短いことがあります。完全放電と充電を数回繰り返すと元の使用可能時間に戻ります。
・バッテリーは湿気の少ない涼しい場所で保管してください。
・バッテリーには寿命があります。使用可能時間が短くなってきたら、新品と交換してください。
・バッテリーの金属部分には素手で触れないでください。
・バッテリーは次のことに注意してお取り扱いください。取り扱いを誤ると、液漏れ、過熱・破裂・発火し、火災やけがの原因になります。
  ・電池の＋－端子間をショートさせない。
  ・火中に投入したり、60 ℃以上に加熱しない。
  ・落下などの強い衝撃を与えない。
  ・外装パックが著しく破損するような衝撃を与えない。
  ・濡れた布で金属部分を拭かない。
  ・水に濡らしたり、濡れた手で触れない。
  ・分解しない。
  ・火のそばや、炎天下、暖房器具の近くなどで使用、放置、充電しない。
  ・指定外のバッテリーを使用しない。
  ・液漏れしている場合には、素手で触れない。万一付着した場合は、流水で洗い流す。
・使用済みのバッテリーは、希少資源の有効利用のために、端子または接続コードにテープをはるなどの処置をしてから、充電式電池リサイクル協力店に持参していただくか、お問い合わせ先へ処分方法をお問い合わせください。
・定期的に完全放電を行わないと、バッテリーでの動作時間が短くなり、バッテリ低下アラームが早く動作することがあります。

さくいん

他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ
このマニュアルにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティー契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約に基づき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。
それ以外の場合は該当ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。
・Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
・その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

ハードウェアを使いこなす

初 版　2003 年 2 月

株式会社　日立製作所
インターネットプラットフォーム事業部
〒 243-0435 神奈川県海老名市下今泉 810 番地
お問い合わせ先：HCA センタ 0120-2580-91

NL0303000-1

HITACHI FLORA 210W NL3

ハードウェアを使いこなす

HITACHI

NL0303000-1